

# 平成 27 年度病害虫発生予察 特殊報第 3 号

平成 27 年 8 月 21 日  
大分県農林水産研究指導センター  
農 業 研 究 部

1 病 害 名 キク茎えそ病

2 病原ウイルス キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV)

3 発 生 作 物 キク

4 発 生 経 過

平成 27 年 6 月に大分県内の露地栽培キクにおいて、茎にえそ、葉に退緑、えそを呈する株が確認された。病徴からウイルス病が疑われたため、当センターでトマト黄化えそウイルス (TSWV)、インパチエンスえそ斑点ウイルス (INSV) について、迅速免疫濾紙検定法 (RIPA 法) で検定したが、いずれも陰性であった。そこで、RT-PCR 法による遺伝子診断を実施した結果、キク茎えそウイルス *Chrysanthemum stem necrosis virus* (CSNV) であることを確認した。

5 県内の発生状況

- 1) 初確認年月日：平成 27 年 6 月
- 2) 発生確認地域：大分県
- 3) 発生確認面積：50a

6 病徴及び伝染方法

1) 病徴等

キクでは茎葉にえそ症状 (写真 1)、葉に退緑、えそ輪紋症状 (写真 2) を生じる。

2) 伝染方法

本ウイルスはミカンキイロアザミウマ (写真 3) によって媒介される。1 齢幼虫が罹病植物を吸汁することで本ウイルスを獲得し、永続的に伝搬するが、経卵伝染はしない。種子伝染および土壌伝染は確認されていない。

7 国内での発生状況

本ウイルスによる病害は、キク、アスター、トルコギキョウ、トマト、ピーマンで発生が報告されており、キクでは本県を含めて 28 都府県で発生が確認されている。本県では平成 26 年 11 月にトルコギキョウで、平成 27 年 3 月にピーマンで発生が確認されているが、キクでは初確認である。

8 防 除 対 策

- 1) 発病株は抜き取り、ほ場外に持ち出して焼却または埋没処理する。ほ場周辺に放置すると二次伝染源となるので速やかに処理する。
- 2) 施設栽培の場合は、開口部に防虫ネットを張り、ミカンキイロアザミウマの侵入を防ぐ。防虫ネットは 0.8mm 目合い以下が望ましい。
- 3) 圃場内および周辺の雑草はミカンキイロアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。
- 4) 青色または黄色の粘着トラップを設置して、ミカンキイロアザミウマの早期発見に努める。
- 5) ミカンキイロアザミウマの薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用を避

け、ローテーション散布を心掛ける。使用薬剤は大分県農林水産研究指導センター農業研究部病害虫チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」を参照し、農薬使用基準（使用時期、使用回数等）を遵守する。

（ホームページアドレス <http://www.jppn.ne.jp/oita>）

6) 施設栽培の場合は、栽培終了後に施設を密閉して蒸し込み、保毒虫を死滅させる。

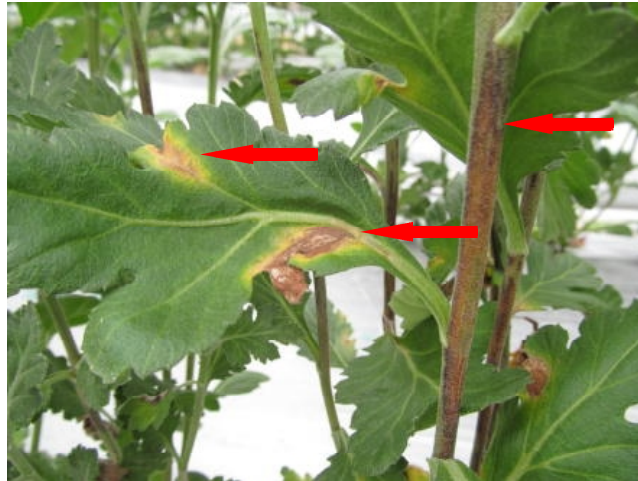


写真1 茎・葉のえそ症状



写真2 葉のえそ輪紋症状



写真3 ミカンキイロアザミウマ成虫